



—学校・保護者・地域とともに子どもたちの未来を創造する—

教育委員会だより

「住むんだったら」「学んだったら」「教えるんだったら」つがる市がいい！

第17号

令和8年9月

つがる市教育委員会

発行に寄せて

こころ安らぐところ

つがる市教育委員会 教育長 山谷 光寛



■夏の思い出と心の安らぎ

この夏、家族とともに青森市の善知鳥神社と十和田湖畔の十和田神社を訪れました。

別々の日に訪れたのですが、どちらも気温が高く、また湿度も高い日でした。

しかし、街の中心部にある善知鳥神社の境内は涼やかな風が吹き、十和田湖畔山中の十和田神社も参道と境内では、木々からの香りが心を癒してくれました。

それほど長い時間滞在したわけではありませんが、日常から解放され、心が安らぎ、とても良い気分転換を図ることができました。

この委員会だよりがお手元に届くのは、夏休みが明けて約2週間が経つ頃でしょうか。

子どもたちは学校生活のリズムを取り戻した一方で、時期的に若干の疲れが出てくる頃かもしれません。

また、夏休みから冬休みにかけての期間は比較的長く、子どもたちが中心になって活動する行事も多くなります。様々な場面で活躍の機会が増える一方で、学校では気が張り詰める場面も少なくありません。

■家庭の温もりが、子どもたちの原動力に

そんな学校で緊張した時間を過ごす子どもたちにとって、家庭がこころ安らぐ癒しの場となり、エネルギーを充電して次の日に臨むということが望ましい姿ではないかと思います。

家族間の何気ない談笑、ねぎらいの言葉、励ましの言葉が、子どもたちにとっての一番のパワー源となるはずです。

■安心して学校生活を送るための土台づくり

家庭が、子どもも家族も安心して自分の悩みや弱みを打ち明け、自分らしく前を向く力を高めていける場所であることが、子どもたちの心の安定につながるのではないのでしょうか。

我々大人の役割のひとつは、子どもたちから発せられるわずかなサインや呼びかけに気づき、勇気づけ、優しく包み込んであげることだと考えています。

子どもたちがこれから約半年間、安心して学校生活を送り、それぞれの長所を生かして成長していけるよう、我々大人が温かく応援し、見守ってまいりましょう。

詳細版はWEBで閲覧できます

＝詳細版の掲載内容＝

- 教育長 発行に寄せて
- 隔週水曜日午前授業に関するアンケート結果
- 運動部活動の地域連携(重点事業)

※スマホ、タブレット等から御覧いただけます

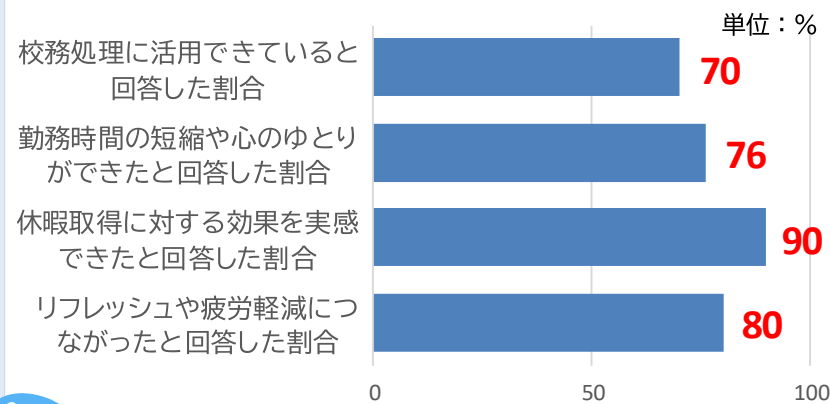
隔週水曜日午前授業に関するアンケート結果

本調査は、現在「働き方改革」の一環として実施している「隔週水曜日午前授業」について、教職員・保護者・児童生徒の三者から多角的に効果と影響を検証したものです。
調査期間：令和8年7月6日(月)～令和8年7月17日(金) 実施方法：Google Forms での WEB 回答

※は複数回答で全回答者数を分母として算出しています。

教職員の状況

どんな効果があったの？



Good!

隔週水曜日午後の余白時間を各教職員が主体的に活用することで、校務処理の効率化や休暇取得が促進され、心身のゆとりやリフレッシュに大きく寄与していることが検証されました。

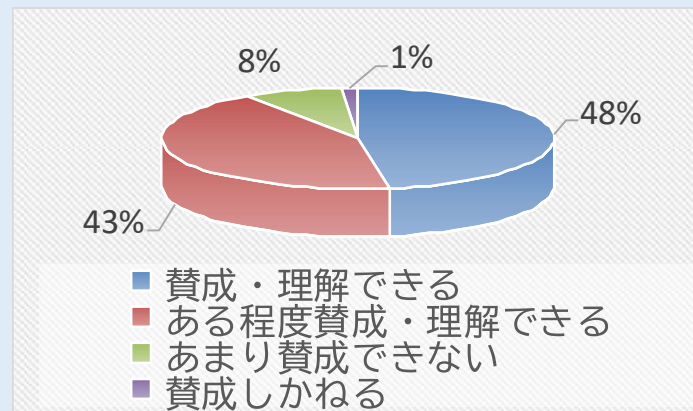
check

一方で、一部の学校においては当該時間が研修や会議に充てられ、個人の裁量で活用しづらい現状や、他曜日への業務のしわ寄せを懸念する声も見られました。

保護者の意向

隔週午前授業の実施について

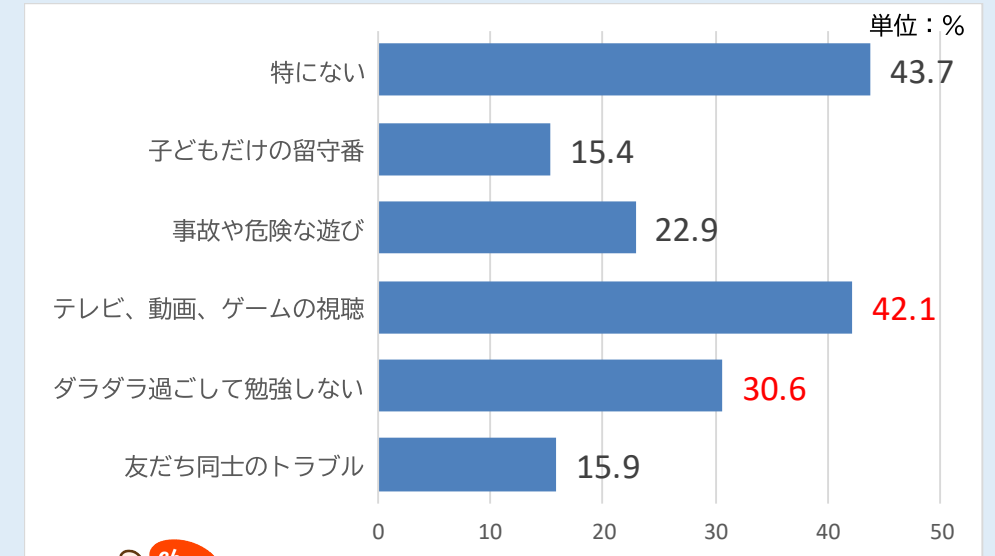
教職員の働き方改革(負担軽減、授業準備の確保)への理解



Good!

隔週水曜日午前授業の導入に対し、約9割の保護者が教職員の働き方改革に向けた取り組みに理解を示しています。また、教職員の心身のゆとりや環境整備が、最終的に児童生徒に対する教育の質の向上へとつながることへの期待感が寄せられていました。

Q お子様の過ごし方で心配な点について※

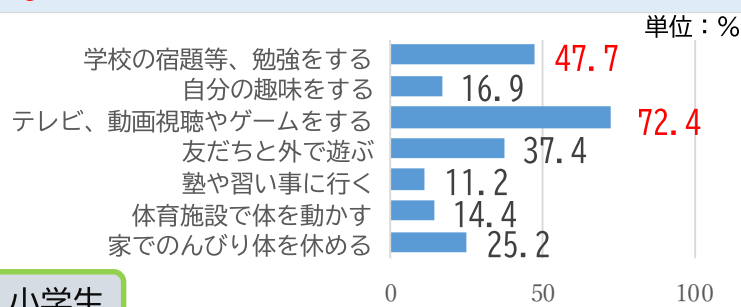


check

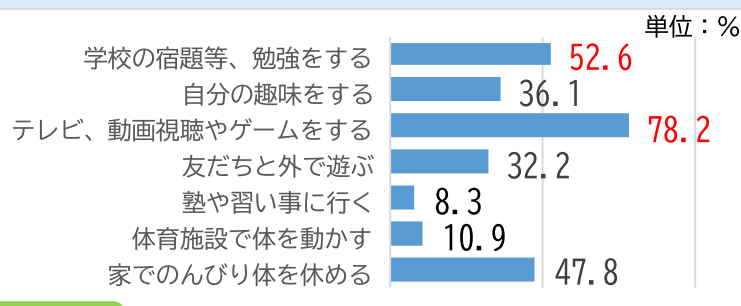
一方で、早めの下校に伴う家庭での過度なゲーム・動画視聴への不安とともに、学力への影響を懸念する意見がありました。また、学童保育の過密化を心配する声も挙がっています。下校後の安全な過ごし方の啓発や、受け入れ体制の整備が今後の課題と捉えています。

児童生徒の状況・意向

Q 水曜日の午後の過ごし方について※

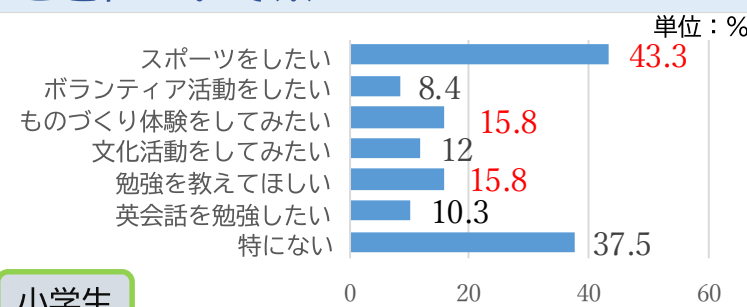


小学生

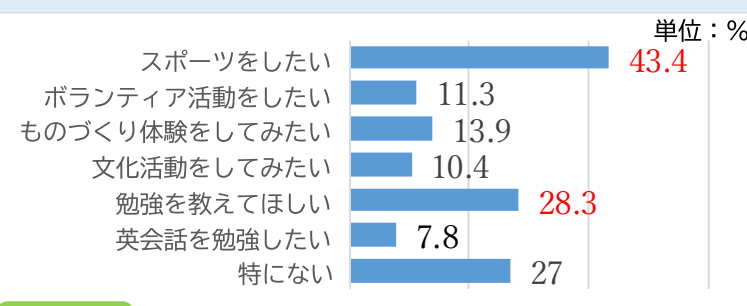


中学生

Q 水曜日の午後にチャレンジしてみたいことについて※



小学生



中学生

【現状】

水曜日午前授業の導入により、子どもたちの多くは「好きなことができる時間が増えた」と前向きに捉えています。午後の時間の活用方法としては、勉強や友達との遊び、リフレッシュのほか、ゲームや動画視聴などに充てる姿も見られます。

【子どもたちのニーズ】

今後チャレンジしたいこと(ニーズ)として、スポーツ活動を希望する声が圧倒的に多いほか、特に中学生からは「学習支援を受けたい」という主体的・意欲的な思いが挙がっています。単に放課後の自由時間を提供するにとどまらず、スポーツ機会の創出や学習サポートなど、子どもたちの興味・関心に応える受入環境の充実が期待されています。

調査結果を受けて

まずはアンケートにご協力いただいた保護者・教職員・児童生徒の皆様へ心より感謝申し上げます。いただいたご意見を踏まえ、対応を進めてまいります。

【教職員への対応】

水曜午後は個人裁量で使える時間であることを明確化し、会議等の抑制と業務効率化を進めます。

【保護者への対応】

家庭での過ごし方や学童の過密など、保護者の懸念に応える体制・方向性を検討します。

【子どもたちへの対応】

スポーツ機会の創出や中学生向けの学習支援など、子どもたちの主体的・意欲的な活動を支える環境づくりについて検討し、自分を成長させるための自律的な時間の使い方を支援します。

水曜日の午後に「子どもと教師、双方が自律的に時間をデザインする日」へと発展させ、子どもたちが自らワクワクする一歩を踏み出し、主体的に学ぶ力を育む「未来のための豊かな余白の時間」としてまいります。

アンケート結果の詳細は市のWEBで確認できます。(二次元コード参照)



部活動の地域展開等の改革実行期間がスタートしました

部活動の地域展開 ～子供たちの活動を学校から地域全体へ～

令和8年度から、部活動改革は新たな「改革実行期間（前期）」を迎えました。急激な少子化が進む中においても、生徒が将来にわたってスポーツ・文化芸術活動に親しむ機会を確保するためには、これまで学校部活動が担ってきた教育的意義を継承しながら、学校だけではなく、地域全体で子供たちの活動を支える持続可能な環境づくりが必要です。

つがる市教育委員会では、こうした部活動を取り巻く環境の変化を踏まえ、令和8年4月に「つがる市部活動の地域展開推進計画」を策定し、令和8年度から令和10年度までを前期、令和11年度から令和13年度までを後期として、段階的な地域展開を進めています。

県の方針を見据え、さらに進むつがる市の地域展開

青森県教育委員会は令和8年8月5日に、『令和10年度までに原則として県内すべての公立中学校で休日の部活動を行わないこと』を目標とする方針を示しました。

一方、つがる市では、休日だけでなく平日を含めた地域展開をすでに進めており、学校、競技団体、既存クラブ、地域指導者等との協議を重ねながら、それぞれの実情に応じた体制づくりに取り組んでいます。

地域クラブへの移行により、学校や学区の枠を越えて、子供たちが希望するスポーツ・文化芸術活動を地域で継続できる環境を整えるとともに、移行が可能となった競技・活動から、学校や関係者との合意形成を図りながら、学校部活動から地域クラブへ段階的に活動の場を移していきます。

地域展開を支える仕組みづくり

つがる市では、地域展開を具体的に進めるため、活動内容や運営体制、安全管理など一定の要件を満たす団体を「つがる市地域クラブ」として認定する制度を設けています。

また、地域クラブの立ち上げや継続的な運営を支援するため、クラブ設立時に必要となる経費への支援や、地域指導者への謝金支給など、地域で活動を支えるための環境整備にも取り組んでいます。

こうした制度整備と併せて、各中学校や競技団体、既存のスポーツ・文化芸術団体等への説明や協議を進め、それぞれの活動の実情や課題を共有しながら、地域クラブへの移行に向けた取組を進めています。

「部活動がなくなる」のではなく、「活動の場を地域へ」

部活動の地域展開は、子供たちのスポーツ・文化芸術活動を縮小するための取組ではありません。少子化が進んでも、子供たちが希望する活動を諦めることなく、将来にわたって継続して活動できる環境を、学校だけではなく地域全体でつくっていくための取組です。

つがる市教育委員会では、今回示された青森県の方針も踏まえながら、休日に限らず平日を含めた地域展開を進め、部活動が直面する少子化や指導者不足などの課題を、地域のスポーツ・文化芸術環境をさらに充実・発展させる機会へと変え、子供たちにとってより良い活動環境を未来へつないでいきます。

今後は、学校や保護者をはじめ、スポーツ少年団、地域のスポーツ・文化芸術団体、指導者など、地域で活動する皆様とも連携・協働しながら取組を進めていきますので、ご理解とご協力をお願いします。



担当：社会教育スポーツ課